ウィークリー・ブレッド・オブ・ライフ

（2024年12月9日（月）～15日（日））

岸和田聖書教会
牧師　栗原純人

「ブレッド・オブ・ライフ」とは「いのちのパン」（ヨハネ 6：48）。「わたしはいのちのパンです」と言われるイエス・キリストさまをみことばによって食しましょう。今日一日の力です。以下の手順を参考に聖書を読みましょう。

1. 静まります。「しかし私は　義のうちに御顔を仰ぎ見　目覚めるとき　御姿に満ち足りるでしょう。」（詩篇 17：15）。神さまがあなたを呼んでおられます。
2. 声に出してその日の聖書日課を読みます。
3. 気づいたこと、わからないことなどをノートに箇条書きし、その後『みことばの光』、このブレッド・オブ・ライフの文章を読みます。わかったことがあったら、さらに書いてみましょう。
4. もう一度、聖書日課を読みます。違う響きがあるでしょうか？
5. 祈りましょう。実際に声に出して。そして祈りの中心部分を書いてみましょう。一日の終わりに、今朝の聖書を思い起こし、みことばがどのように生きたか、思い巡らしましょう。

イザヤ書が終わります。どのような最後でしょうか？注目しましょう。

12月9日（月）

今日の聖書日課：イザヤ 65：1～15

それゆえ、神である主はこう言われる。「見よ、わたしのしもべたちは食べる。しかし、おまえたちは飢える。見よ、わたしのしもべたちは飲む。しかし、おまえたちは渇く。見よ、わたしのしもべたちは喜ぶ。しかし、おまえたちは恥を見る。

イザヤ 65：13

「わたしのしもべたち」はイスラエルで「おまえたち」は異邦人？違います。両方ともにイスラエルなのです。主はあわれみをもって背く民を救おうとされますが、それに答えない、悔い改めない、立ち返らない者たちがいたのです。

神さまのあわれみは尽きません。すべてはこちら次第なのです。

12月10日（火）

今日の聖書日課：イザヤ 65：16～25

見よ、わたしは新しい天と新しい地を創造する。先のことは思い出されず、心に上ることもない。

イザヤ 65：17

イザヤ 40 章以降は、バビロン捕囚からのエルサレムへの帰還という主のみわざと、その後のイスラエルの民についての預言でした。その預言の最後に主は、驚くべきことを語られました。「新しい天と新しい地」。それまでにあったどんな祝福も思い出されることがないくらい大きな恵み。18 節以降を読んでみてください。この世のこととは思えません。そうです。これこそ「新しい天と新しい地」。それは、黙示録が語る「新しい天と新しい地」（黙示録 21：1）なのです。救い主イエス・キリストが再びこの地に来られた後に神が造られる世界なのです。私たちが普段「天国」と呼んでいるところ、それはこのことなのです。

12月11日（水）

今日の聖書日課：イザヤ 66：1～14

わたしも彼らを厳しく扱うことを選び、彼らに恐怖をもたらす。それは、わたしが呼んでもだれも

答えず、わたしが語りかけても聞かず、わたしの目に悪であることを行い、わたしの喜ばないことを選んだからだ。」
イザヤ 66：4
　黙示録は最後の最後に「新しい天と新しい地」（黙示録 21：1）の様子を示しますが、しかしそのことばの中で、こう言います。「しかし、臆病な者、不信仰な者、忌まわしい者、人を殺す者、淫らなことを行う者、魔術を行う者、偶像を拝む者、すべて偽りを言う者たちが受ける分は、火と硫黄の燃える池の中にある。これが第二の死である。」（黙示録 21：8）。せっかく天国のことが示されているのに水を差すようなことを言わなくてもいいのに、と思います。しかし、聖書は言うのです。神の救いは信仰のみで受けることができるけれど、信じない者は地獄に行く、ということを。
　私たちは天国の喜びと地獄の苦しみを、この世で聞き、ただ神のあわれみにすがるのです。

12 月 12 日（木）
今日の聖書日課：イザヤ 66：15～24
彼らは出て行って、わたしに背いた者たちの屍を見る。そのうじ虫は死なず、その火も消えず、それはすべての肉なる者の嫌悪の的となる。」
イザヤ 66：24
　これがイザヤ書の最後の節です。なんだか、後味が悪いと思います。
　「彼ら」とは主のあわれみによって救われたイスラエルの民。彼らは全世界に出て行って「わたしの栄光を諸国の民に告げ知らせる」のです（19）。そして全世界から異邦人がイスラエルとともにエルサレムにやってくるのです（20）。その上で、あの最後の節がやってくる。福音とは同時に神の厳しいさばきを示すものなのです。イザヤ書の最後が、世界宣教の最後がこのように終えられていることを心に刻み、喜びと恐れをもってイエス・キリストの福音を宣べ伝えましょう。

12 月 13 日（金）
今日の聖書日課：ミカ 1：1～16
山々は主の足もとに溶け去り、もろもろの谷は裂ける。まるで、火の前の、ろうのように。坂に注がれた水のように。これはみな、ヤコブの背きのゆえ、イスラエルの家の罪のゆえだ。
ミカ 1：4～5
　ミカは、イザヤとほぼ同時代の預言者。その始まりは、重々しいものです。ヤコブ、すなわちイスラエル人の罪とそれに対するさばきの予告から始まっています。しかし、イザヤの最後の最後を見るときに私たちは気づくのです。このような厳しいさばきが語られているのは、主のあわれみと恵みがあるからこそなのです。それにもかかわらず背くイスラエルはこのようにさばかれる。預言書を読むと気が滅入ることがあります。しかし語られるお方のそのまなざしはいつでも真剣です。「帰って来なさい」と呼びかけられる神さまのみことばを聞き続けましょう。

12 月 14 日（土）
今日の聖書日課：ミカ 2：1～13
ヤコブよ。わたしは、あなたを必ずみな集め、イスラエルの残りの者を必ず呼び集める。わたしは彼らを、囲いの中の羊のように、牧場の中の群れのように、一つに集める。こうして、人々のざわめきが起こる。
ミカ 2：12
ざばきのことばの後で、語られる主の救いへの招きです。

12 月 15 日（日）今日の礼拝説教箇所：Ｉコリント 4：1～5「よくやった、良い忠実なしもべだ」
やはり、主の再臨に焦点を合わせて、みことばに聞いていきます。